

平成30年第1回定例会 条例予算特別委員会（総会質疑）

3月22日の議会において下記の3点について質問を行いましたので
内容を要約してご報告いたします。

1. 「学力向上の取組み」について
2. 「子ども食堂」について
3. 「一人一花運動」について



【質問の概要】

1. 子どもたちに確かな学力を身につけさせるための学校教育の充実
2. 「子ども食堂」の活動が市内全域に広がるような支援制度の充実
3. 「一人一花運動」は市民や企業と行政が一緒に取組むとともに
将来に向けて継続されるよう活動を広げていくことが重要

「学力向上の取組み」について

～未来を担う子どもたちが確かな学力を身につけ健やかに成長できる教育環境の充実～

■質問 1

子どもは、その一人ひとりが、未来を創っていくかけがえのない存在です。子どもが自分らしくいきいきと輝き、将来に夢を描きながら、健やかに成長していける社会をつくることは、私たちの願いであると同時に責務でもあります。教育委員会は、平成21年度に「新しいふくおかの教育計画」を策定され、たくましく生きる子どもの育成を基本的な考え方として掲げ、確かな学力の向上や豊かな心の育成、健やかな体の育成などを目指して、様々な事業を実施してきました。子どもたちが社会で活躍するためには、さまざまな進路を自ら切り開いていくことのできる確かな学力を身につけさせることが学校教育の中で最も重要な役割と考えますが、福岡市の学力の現状はどのようになっているのかお尋ねします。

●回答 1 【教育長】

学力の状況については、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果、小学校は、国語と算数の双方の平均正答率が、全国平均値を上回りました。中学校は、国語が全国平均値とほぼ同等であるものの、数学が全国平均値を下回っています。

■質問 2

福岡市の学力については、おおむね、全国と比べて良好な傾向にあると言えます。しかし、その一方で、小学校段階から塾に通っている子どもたちも少なくないようです。福岡市の子どもたちが、どの程度塾に通っているのかお尋ねします。

●回答 2 【教育長】

平成29年度の全国学力・学習状況調査において、塾などで勉強していると回答した割合は、小学校6年生は44.4%、中学校3年生は63.1%となっています。

■質問 3

子どもたちは、毎日、学校で5時間から6時間と多くの時間を学習時間に費やしていますが、希望する進路に進むためには、塾に通うことが当たり前になるのではないかと心配しています。最近では、高校生になってまでも塾に通っている生徒も多く、大学進学を実現させるためには、当然のこととして、塾に通うことが必要となっているのではないかと、心から憂慮しています。本来、学力は、学校の授業を中心として、しっかりとつけていくべきものであり、そのために大切なことは、学校教育における学力向上の取組を充実させていくことに他ならないと考えています。各学校では、学力向上の取組をどのように行っているのかお尋ねします。

●回答3 【教育長】

各学校における学力向上の取組みについては、児童生徒の習熟度に応じたグループ指導を行ったり、授業で学んだ内容を繰り返し学習するなど、一人ひとりの学力課題に応じたきめ細かな指導を行い、学力の定着を図っています。さらに、平成28年度からは、小学校3年生と4年生を中心に、教職経験者や地域の方が学習支援リーダー、学習支援員として放課後に補充学習を行う「ふれあい学び舎事業」を実施しています。30年度は、この放課後学習を70校から全小学校144校に拡充し、児童生徒の学力がさらに向上するように、取組みを充実させます。

■質問4

学力向上のためには、学習指導を行う教師の役割もたいへん重要です。普段、子どもたちと一緒に過ごしている教師の影響は、計り知れないものがあり、教師の授業のあり方や声のかけ方によって、子どもたちの学力の伸び方に違いが出てくるのではないのでしょうか。教師の指導力を高めるために、どのようなことに取り組んでいるのかお尋ねします。

●回答4 【教育長】

教員の指導力の向上については、教員の経験年数に応じた、学習指導の基礎的な知識・技能の習得を図る研修や担当の教科に応じた教科指導の専門性を高める研修などを実施しています。また、各学校においては、授業力の高い教員が模範となる授業を公開し、授業を見た教員一人ひとりが、自分自身の授業を振り返り、その技術を参考にするなど、指導力を高めるための校内研修を実施しています。

■質問5

学校の先生方は、毎日、授業を行い、さまざまな研修にも参加し、忙しい日々を過ごされていると思いますが、しっかりと子どもたちに向き合うことができなければ、いい授業など、できないのではないのでしょうか。平成25年に実施された「国際教員指導環境調査」によると、日本の教員における長時間勤務の実態が明らかになり、34カ国の平均が38.3時間に対し、53.9時間という結果になっています。この調査では、研修に参加したくても、スケジュール調整ができず、参加できない教員の存在も課題として報告されています。この現状を改善することが、学校教育の質を向上させ、子どもたちに学力を身につけさせるためには必要不可欠と考えます。学校において、教員が子どもに向き合う時間を確保するために、どのようなことに取り組んでいくのかお尋ねします。

●回答5 【教育長】

教員が子どもに向き合う時間の確保については、全教職員へのアンケート調査や、改善すべき業務の抽出などを基に、具体的な業務改善の手法などについて検討を進めてきており、平成29年度末までに、「業務改善のための実施プログラム」を策定し、教員の負担軽減に取り組めます。30年度は、部活動顧問の負担を軽減するため、単独で試合の指導や引率ができる「部活動指導員制度」を導入し、また、中央区で先行実施する学校事務センターについては、集約処理による

学校事務の効率化を図るとともに、各学校においては、教員が行っている業務の一部を学校事務職員が補助します。さらに、学校に対する調査・照会文書の削減や簡素化を、事務局内へ徹底するなど、教員の負担を軽減することによって、子どもと向き合う時間を確保していきます。

■質問6

未来を担う子どもたちに確かな学力を身につけさせることは、とても重要であり、そのためには教員の指導力を向上させ、授業や「ふれあい学び舎事業」などの学びの機会を増やすとともに、その質を向上させることが必要となります。そして、塾に頼らず学校で学力を身につかせ、自らの進路を切りひらく力を育てることが学校の使命であり、あらゆる教育活動を通して「生きる力」を育む教育を行うことが最も重要と考えます。

また、教員が、自らの指導力を高めるための研修に費やす時間や、何よりも、子どもたちと向き合うための時間を確保することも重要です。そのためにも、指導力があり、人間性が豊かな、人間力の高い教員に、子どもたちを指導してほしいと願っています。そのことこそが、子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、子どもたちの持つ可能性を未来につなげることができるものと確信しています。人間力を基盤とした教員の指導力を高め、学力向上のさまざまな施策を、積極的に推進してほしいと思います。

最後に、学校教育のさらなる充実につなげていくためにも、今後の学力向上の取組みについて、ご所見をお伺いします。

●回答6 【教育長】

「ふれあい学び舎事業」については、学校、地域、保護者の連携協力のもとに行う放課後補充学習を実施することで着実に成果をあげており、全ての子どもたちの学力向上のため、今後とも事業を充実させていきます。

将来の福岡市を担う子どもたちの可能性をしっかりと未来につなぐため、一人ひとりに確かな学力を定着させるとともに、希望する進路に温かく導くことこそが、私ども教育委員会の使命であると認識しており、今後とも積極的に教育施策を展開し、着実に子どもたちを育成していきます。

2. 「子ども食堂」について

～子どもたちへの食事の提供だけでなく安心して過ごせる居場所としての子ども食堂の拡充～

■質問 1

我が国の子どもの貧困率は、平成27年度時点で、13.9パーセントとなっており、3年前より、2.4ポイントの改善が見られたものの、依然として、子どもたちの7人に1人が貧困の状態にあるなど、子どもたちを取り巻く環境は厳しい状況です。「子ども食堂」は、子どもに食事を提供するだけでなく、地域の大人たちに見守られながら、子どもが安心して過ごせる居場所と

して、たいへん大きな役割を果たしており、福岡市としてしっかり支援すべきであることや支援にあたっては運営に関する課題を把握して、より良い事業としていくことが重要と申し述べてきました。

「子ども食堂」に対する支援開始から2年が経過しましたが、改めて、支援事業の目的についてお尋ねします。

●回答1 【こども未来局長】

「子ども食堂」の支援については、経済的な事情で十分な食事がとれない子どもたちや、家の中でひとりで食事をしている子どもたちに、食事の提供と学習支援などの居場所づくりを行う団体に対して、活動経費の一部を助成し、子どもが健やかに育成される環境整備を促進するものです。

■質問2

平成28年度と29年度の助成団体数と助成額をお尋ねします。あわせて、30年度の助成団体の見込み数と予算額についてお尋ねします。

●回答2 【こども未来局長】

平成28年度は、14団体に、215万8千円を助成し、29年度は16団体に210万9千円を交付決定しました。30年度は、20団体への助成を見込んでおり、予算額は388万円です。

■質問3

支援をいただいている団体も少しずつ増えてきているようですが、福岡市としてこの事業の効果をどのように認識しているのかお尋ねします。

●回答3 【こども未来局長】

この支援事業を契機として、子ども食堂の活動を開始した団体も多くあり、活動のすそ野を広げることができたと考えています。なお、助成団体へのアンケートや情報交換会を行っており、団体からは、「資金面で安定した」、「団体としての信頼を得ることができた」、「寄付をいただけるようになった」、などの意見があり、団体運営の安定化につながったと考えています。

また、参加している子どもたちについても、「生活習慣が身についた」、「食事への関心が高まった」、「自分で考え行動できるようになった」、などの意見があり、子どもたちに良い変化があったと聞いています。

■質問4

福岡市の「市政に関する意識調査」では、「福岡市を住みやすい」と感じている市民の割合が全体の96パーセントと、2年連続で過去最高値を記録しています。福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、また、人と経済活動を呼び込み、都市を成長させていくことは大事なことですが、成長の一方で、厳しい環境にある人々を誰も置き去りにせず、支援の手を差し伸べていく都市であることが、本当の意味で豊かなまちであると言えるのではないのでしょうか。市民の善意による自主的な活動である「子ども食堂」が広がっていくことは、福岡市が真の豊か

なまちであることを示すひとつの指標であると考えています。また、子どもたちの空腹を満たすだけでなく、子どもたちが安心して過ごすことができる場所という観点からも、「子ども食堂」は数多くあるほうがよいと考えています。「子ども食堂を始めたい」という民間団体が、仮に、20団体を超える要望があった場合は、どのように対応するのかお尋ねします。

●回答4 【こども未来局長】

市民の皆様の善意により、子ども食堂の活動が広がっていくことは、子どもが健やかに育つ環境づくりの観点からも、大変重要だと考えています。

想定を上回る開設の要望があった場合には、なるべく希望に沿えるよう、予算の確保に努めたいと考えています。

■質問5

市民の善意の芽を摘むことなく、実施箇所を増やしてもらえよう要望します。

毎日の食事は、子どもたちにとっては、とても大切なものです。成長期の体づくりとともに、いろんな大人に話を聞いてもらいながら、一緒に食事をする中で、たくさんの大人が自分を支えてくれていることに気付き、そうした経験から、豊かな心が育まれるのではないのでしょうか。一方で、「子ども食堂」への支援開始から、2年が経過し、支援団体からさまざまな意見があがっていると思いますが、それらを踏まえ、福岡市として、この事業の課題をどのようにとらえているのかお尋ねします。

●回答5 【こども未来局長】

アンケートや情報交換会において、助成団体からは、「ボランティアスタッフの不足」、「資金の調達に苦労する」、「同一団体への補助年限の3年終了後の運営が不安」、などの意見があり、30年度は、実施箇所数の更なる増加につながるよう、制度の拡充を行うこととしています。

■質問6

30年度から制度を拡充するとのことでしたが、どのような内容なのかお尋ねします。

●回答6 【こども未来局長】

平成30年度からは、実施回数の補助要件について、「月2回以上から月1回以上」に緩和するとともに、運営費の補助上限額について、これまで、実施回数にかかわらず、一律20万円としていましたが、30年度からは、実施回数に応じた上限額を設定することとし、「月1回の実施の場合は、10万円」、「月2回の場合は、20万円」、「月3回の場合は、30万円」、「月4回以上で40万円」としています。

また、各区の社会福祉協議会を窓口とし、補助申請を年間を通じて受け付けるとともに、子ども食堂の開設サポートや食材確保、ボランティア人材の紹介、助成金の申請など、運営に関する相談に応じることにより、団体の安定的な運営を支援していきます。

■質問7

子どもの貧困対策は、長期的な視点でとらえなければなりません。子どもたちが安心して過ごせ

る居場所があり続けることで、厳しい生活環境から抜け出し、健やかに育っていくことができるのではないのでしょうか。そのためにも「子ども食堂」が短期間で立ち行かなくなるような状況を絶対につくってはなりません。現行の制度によると、同一団体への補助は、3か年までと定められていますが、3年間で安定した運営ができるようになるのは難しく、制度の内容を見直す必要があると考えますが、ご所見をお伺いします。

●回答7 【こども未来局長】

子ども食堂の継続的な運営においては、食材費の確保が課題であると認識しています。補助年限のあり方については、現在、運営者の声や運営の実情を伺っているところであり、それらを踏まえたうえで、今後検討していきます。

■質問8

「子ども食堂」の活動で大事なことは、取組みが市内全域に広がっていくことです。地域には、子どもたちに何とかしてあげたいと思っている市民や、団体、企業がたくさんいらっしゃると思います。そのような方々が、担い手としての一歩を踏み出し、市内に「子ども食堂」の輪が広がっていくような、より積極的な支援をお願いします。また、支援が必要な子どもたちにきちんと届くよう、ハードルは低く、間口は広くなるような支援制度となるよう要望します。最後に、「子ども食堂」への支援の取組みについての意気込みをお伺いします。

●回答8 【こども未来局長】

平成28年度から、子ども食堂への支援を開始しましたが、新たに開設された子ども食堂もあり、活動の広がりを見せています。また、団体の運営が安定したり、利用する子どもたちにも、生活習慣が身につくなどの良い変化があるなど、団体からも評価を得ているところです。今後とも、市民の善意の輪がより広がっていくように、制度の見直しも行いつつ、一人でも多くの子どもたちが、地域の大人たちに交わりながら安心して過ごせる居場所となるよう、引き続き子ども食堂の支援に取り組んでいきます。

3. 「一人一花」運動について

～福岡のまちが彩りや潤いにあふれ、誰もが親しみや愛着を持ち、おもてなしと豊かな心が育まれるまち「フラワーシティ福岡」を目指して～

■質問1

今年から「一人一花」運動が始められています。公共空間から民有地、個人宅にいたるまで、ありとあらゆる場所で、市民や企業のみなさんと一緒に花と緑を育て、彩りや潤いにあふれ、おもてなしと豊かな心が育まれるまち「フラワーシティ福岡」を創る取組みということです。福岡市

は、「住みやすい」「住み続けたい」まちと言われていますが、さらに市民の生活の質を向上させるためには、自然環境や景観を守るとともに、心豊かな市民生活を支えるまちづくりをより一層進めていく必要があります、この「一人一花」運動を着実に進めて行くことが重要です。「一人一花」運動で、福岡市はどのような取組みを行うのかお尋ねします。

●回答1 【住宅都市局長】

「一人一花」運動については、市民や企業、行政が、ともに力を合わせて花と緑を育てていく取組みであり、多くの皆さまが訪れる都心部などでは、企業の協賛による花壇づくりを、地域に身近な拠点である区役所や公民館、公園、道路などの公共空間では、市民や企業による花壇づくりの活動を支援していきます。

また、各ご家庭でも、緑化助成制度などを活用して、積極的に緑や花づくりに取り組んでもらいたいと考えています。

■質問2

この運動を広げていくためには、多くの市民や企業の方に知ってもらい、参画意識を高めてもらうことが大切ですが、どのように取り組んで行くのかお尋ねします。

●回答2 【住宅都市局長】

「一人一花」運動を広げていくためには、この運動の趣旨を分かりやすく発信し、多くの市民や企業の皆様に共感してもらうことが大切であると認識しています。そのため、これまで取り組んできた、市民や企業による花や緑づくりに関する事業を分かりやすく整理して、必要に応じて拡充し、市政だよりやホームページに加え、ツイッターやフェイスブックといったソーシャルネットワークサービスも活用しながら積極的に発信していきます。区役所や公民館などでは、ポスターの掲示やチラシの配布に加え、花壇や花飾りに使える「一人一花」運動のロゴ入りプレートの配布、地域の自治協議会や公民館などの会合で「一人一花」運動の積極的なPRに努めています。また、花屋や園芸店とも連携し、ポスターの掲示やチラシの配布に加え、ロゴ入りプレートを配布するなど、この運動を市民に身近に感じてもらう取組みを行っています。

さらに4月には、都心部において市民や企業の皆様と一緒に、警固公園を花でいっぱいにする「一人一花スプリングフェス」の開催や、博多駅から天神を通過して舞鶴公園までの公共空間を7万本の花で彩る「福博花しるベチューリップロード」を実施します。

また、秋には、花や緑づくりを行っている団体や企業の皆様の活動発表や表彰、子どもたちの作品コンテストなどのイベントを開催し、たくさんの市民の皆様の参加により、市民や企業一人ひとりが花や緑に触れ、親しむきっかけづくりにも取り組んでいきます。

■質問3

このようなキャンペーンは、全庁をあげて推進すべきであり、緑化施策にかかわる担当部局のみの取組みでは限界があります。区役所では花壇がきれいに整備され、エントランスや窓口もたくさんのお花で飾られています。この運動を継続、発展させるためには、各局や区がお手本になって、

全庁をあげて取組みを進めることが大切です。各局がどのような取組みを行われるのか、一つ一つ尋ねたいところですが、主管局である住宅都市局に、ご所見をお伺いします。

●回答3 【住宅都市局長】

「一人一花」運動を全市的な取組みとして継続するには、各局区において、積極的に様々な活動やPRなどを行うことが大切と考えています。

そのため、中園副市長をトップとして各局区の総務担当部長からなる「一人一花運動連絡調整会議」において、全庁的に情報を共有しながら、幅広く取組みを検討しています。

区役所では、窓口や待合スペースを花で飾るとともに、市民が制作した生け花などの作品や写真の展示を行っているほか、外構スペースには、市民の皆様の参加により、色とりどりの花壇を設置するなど、花に親しみや愛着を持ってもらうような取組みを行っています。その他、公共スペースでのポスターの掲示、公共工事の仮囲いや庁用車への「一人一花」運動のロゴの掲示、また、関係団体への協力依頼や、様々なイベントを活用した積極的なPRなど、各局区の事業や取組みに応じた広報の展開や運動の盛り上げに取り組んでいます。

■質問4

身近なところから始められる取組みとして、例えば、教育委員会では、小学校や中学校などの授業の一環として「ークラスー花壇」をつくるのはどうでしょうか。また、こども未来局では、保育園をお願いして「一保育園一花壇」などをつくってもらえば、子どもたちが、自分たちで花や緑を育てていく意識を養うきっかけにもなると思います。子どもたちから親へ、そして親から地域へと広がり、ありとあらゆる場所に一花運動が広がっていくきっかけにもなると思うので、是非ともそういった取組みも進めてもらうよう要望します。

■質問5

福岡には、国内外から多くの観光客が訪れており、新たな観光スポットが現れれば、さらに、福岡の魅力向上につながるのではないのでしょうか。そういった視点から見ると、観光客などの来街者が多く集まる駅や空港、港など、福岡市の玄関口となるところも彩りのある花で満たしていくべきと考えますが、ご所見をお伺いします。

●回答5 【住宅都市局長】

多くの来街者が訪れる場所を色とりどりの花で飾ることは、福岡を訪れる皆様に彩りや潤いのある都市としての印象を持ってもらううえで、とても大切と考えています。

例えば、博多駅前広場においては「福博花しるベチューリップロード」の際に、チューリップやパンジーなどを植えたフラワーボックスを設置するとともに、クルーズ船が寄港する中央ふ頭では、周辺企業や団体の協力により、旅客ターミナル周辺や道路などを花や緑あふれる空間にしていきたいと考えています。

また、空港通りの一部では、企業などの協力により、沿道を菜の花やコスモスなど、季節の花でいっぱいにすることを検討しています。

■質問6

このような運動は継続性がもっとも重要です。市民の皆様完全にボランティアで花づくりを続けていただくのはたいへんです。例えば花壇をつくる際には、苗を購入して植えつけますが、年間4回ほど植え替えをする必要があります。そこで参考にしてほしいのが、自分で種をまいて苗を育て、その苗で花壇づくりをされている方がおられます。お話を伺うと、『最初は苦勞するが、種代は安いので負担が軽くなるし、苦勞した分愛着が強い』とおっしゃっていました。このように、花壇づくりを継続するには苦勞も多いと思いますが、どのような支援を行っていくのか、お尋ねします。

●回答6 【住宅都市局長】

市民の皆様には花壇づくりを継続してもらうためには、活動に対する様々な支援が必要と考えています。このため、議員ご指摘のように、種から苗をつくる方法や、管理にあまり手のかからない花壇の作り方などの講座を開催するほか、花や緑を育てる知識や経験豊富なボランティアである「緑のコーディネーター」の派遣、植物園や花畑園芸公園などでの園芸相談など、様々な技術的な支援を実施していきます。

また、公園や道路などの公共空間で、市民団体の花壇づくり活動に対する費用の一部助成や、個人の宅地での、道路沿いの緑化を助成するなどの支援も実施しています。

今後とも、これらの制度活用を積極的に周知するとともに、市民の皆様には花壇づくりを継続してもらえよう、様々な支援の充実を検討していきます。

■質問7

花壇づくりの継続には担い手も必要です。以前から花壇づくりをされている団体の中には、興味を持ってくれる若い人がなかなか集まらず、ご高齢の方ばかりで活動されているところもあり、そういった団体では、自分たちが引退したら、これまで愛情を込めて育ててきた花壇づくりは終わってしまうと心配されています。継続という点では、花壇づくり活動に参加する人を増やしていく取組みも必要と考えますが、ご所見をお伺いします。

●回答7 【住宅都市局長】

担い手づくりについては、これまであまり花や緑に興味を持っていなかった皆様に、まずは、気軽に参加してもらうことが大切と考えています。そのため、市政だよりやホームページ、ソーシャルネットワークサービスなどによる積極的な情報発信や、花や緑に触れ親しむきっかけづくりとしてのイベント開催のほか、園芸店などとの連携による花づくりを体験できる場の提供などに取り組んでいきます。また、花づくり活動のリーダー育成や、既に花づくり活動をしている方のスキルアップなども効果的と考えています。具体的には、緑のまちづくり協会と連携して、花や緑を育てるボランティアリーダーである「緑のコーディネーター」の養成のほか、優れた花づくり活動の情報発信や表彰、活動団体同士の交流会の開催などに取り組んでいきます。

今後とも、参加者のすそ野を広げるとともに、リーダー育成やスキルアップなどにより、より多くの担い手を増やせるよう努めていきます。

■質問8

これまでも、「花づくりを進めていきましょう」といった取組みはありましたが、この「一人一花」運動は、市民や企業、行政が一体となって取り組むもので、今まさに、この運動を盛り上げていくことが、「共創のまちづくり」を進めていくうえでも、重要な役割を果たすものと思われます。この運動を一過性のものではなく、将来に向けて継続されるものとなるよう、活動の輪を大きく広げていって欲しいと思います。最後に、福岡市は「一人一花」運動にどのような思いで取り組んでいかれるのか、市長の意気込みをお伺いします。

●回答8 【住宅都市局長】

平成 29 年度の市民意識調査では、市民 100 人のうち「福岡市のことが好き」と答えた方が 97 人、「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたい」と答えた方が 78 人という結果が出ています。「一人一花」運動は、このような市民の高い郷土愛をだれもが参加できる具体的な形に結び付け、さらに住みやすく誇れるまちにするため、市民や企業、行政が、ともに力を合わせて花や緑を育てようという取り組みです。この運動を進めていくうえでは、多くの市民や企業の皆様の共感を得て、継続してもらうことが大切と考えています。

そのため、市政だよりや SNS などを活用した積極的な情報発信、ロゴ入りプレートの配布、市民に身近な区役所をはじめとする公共空間での花壇づくりや、様々なイベントを通じたきっかけづくり、さらに「緑のコーディネーター」などのボランティア・リーダーの育成などにより、できるだけ多くの市民や企業の皆様に参加してもらい、長く活動を続けてもらえるような支援の充実にも取り組んでいきます。

3月末からの「福岡城さくらまつり」を皮切りに、7万本の花で彩る「福博花しるベチューリッブロード」や「一人一花スプリングフェス」など、様々なイベントがスタートします。

今後、この「一人一花」運動を広げていくことで、福岡のまちが彩りや潤いにあふれ、誰もが福岡に親しみや愛着を持ち、おもてなしと豊かな心が育まれるまちを目指していきます。